



# 平成27年3月期 第3四半期決算補足説明

東亜ディーケーケー株式会社  
平成27年2月  
(東証1部:6848)

# 平成27年3月期 第3四半期決算サマリー



(単位:百万円)

|        | H25.12 実績 | H26.12 実績 | 前年同期比増減 |       | 通期計画   |
|--------|-----------|-----------|---------|-------|--------|
|        |           |           | 金額      | %     |        |
| 売上高    | 9,539     | 9,737     | +197    | +2.1  | 14,440 |
| 営業利益   | 580       | 622       | +41     | +7.2  | 1,430  |
| 経常利益   | 611       | 637       | +26     | +4.3  | 1,460  |
| 四半期純利益 | 329       | 378       | +48     | +14.8 | 950    |
| 減価償却費  | 291       | 370       | +78     | —     | —      |

- 計測機器業界は全般的に、設備投資の増加を受けて一定の回復傾向にあるものの、円安の急激な進行から企業間を取り巻く経済状況には格差があり、総体的には回復感が乏しい中で推移。
- その中で当社は、主力の環境・プロセス分析機器の販売が国内外ともに堅調に推移したほか、本社隣接賃貸ビルが満室となったことで収益を回復、新基幹システムの稼動に伴う減価償却費負担などの経費増要因があったものの、結果としては増収増益を確保。
- 単月黒字化64ヶ月連続記録更新中（平成21年9月～平成26年12月）

## 計測機器事業

**売上高9,550百万円(+1.2%)、セグメント利益1,065百万(△3.6%)**

- 国内公共工事向け上下水道用分析計や総量規制の設備更新需要に伴う環境用水質分析計が好調裡に推移、海外でも中国・台湾を中心に環境用水質分析計の販売が増進し、増収を確保し善戦。
- 利益面では、主力の環境・プロセス分析機器を中心に売上高が前年同期を上回ったものの、原価上昇や円安による提携先製品の仕入れコスト上昇、70周年記念式典費用(一時的費用)があり、微減益。

## 不動産賃貸事業

**売上高186百万円(+89.9%)、セグメント利益106百万円(+244.2%)**

- 前期に1棟貸テナントが退去した本社隣接の賃貸ビル(TDビル)の新たなテナントの入居が完了し、満室となったことで増収増益へ。安定利益確保。

# 四半期業績推移



(単位:百万円)

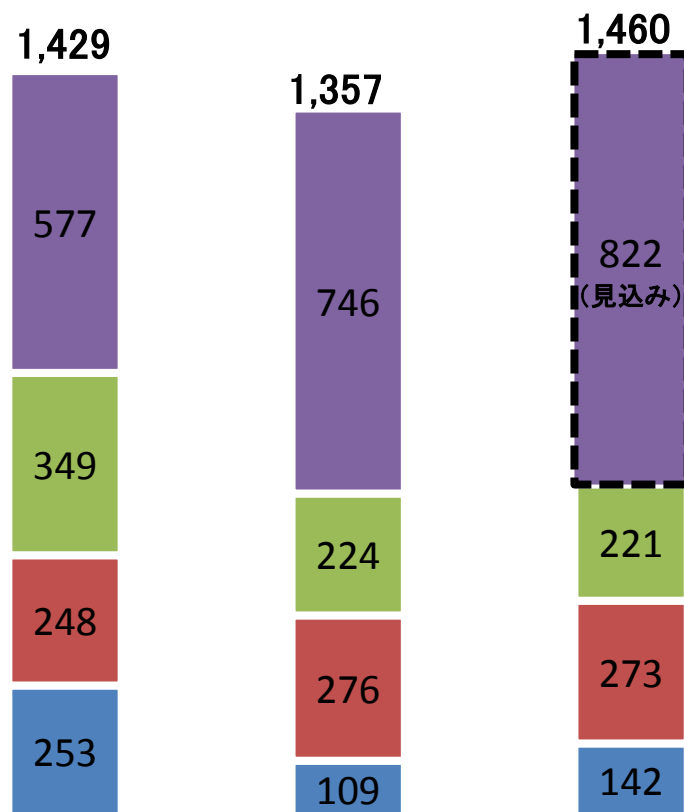
## 売上高(四半期別)

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



## 経常利益(四半期別)

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



H25.3

H26.3

H27.3

H25.3

H26.3

H27.3

(単位:百万円)

|       | H26.3 実績 | H27.3 予想 | 増減率   | 差異   |
|-------|----------|----------|-------|------|
| 売上高   | 13,923   | 14,440   | +3.7% | +517 |
| 営業利益  | 1,310    | 1,430    | +9.2% | +120 |
| 経常利益  | 1,357    | 1,460    | +7.6% | +103 |
| 当期純利益 | 881      | 950      | +7.7% | +69  |

## 計測機器事業

- 国内:上下水道用分析計や環境用水質分析計が国内、海外ともに引き続き業績を牽引、消費税増税の駆け込み需要の影響が長引いた医療用機器分野は回復の兆し。
- 海外:中国、台湾を中心に環境用水質分析計の販売増進が寄与、韓国など需要が減少していた一部地域では回復の兆し。

## 不動産賃貸事業

- 本社隣接の賃貸ビル(TDビル)の新テナントの入居が完了、安定利益確保。

# 好調な「環境・プロセス分析機器」代表例



水処理を必要とするあらゆる業界の生産・品質管理プロセスに導入、生産性向上に貢献

水の酸・アルカリ濃度を測る「pH計」は業界でもトップシェア

水道水用水質自動測定装置は首都圏を中心に販売堅調

PM2.5測定装置は国内シェアNo.1（約50%）



pH計変換器



水道水用水質自動測定装置  
(MWB4-72型)

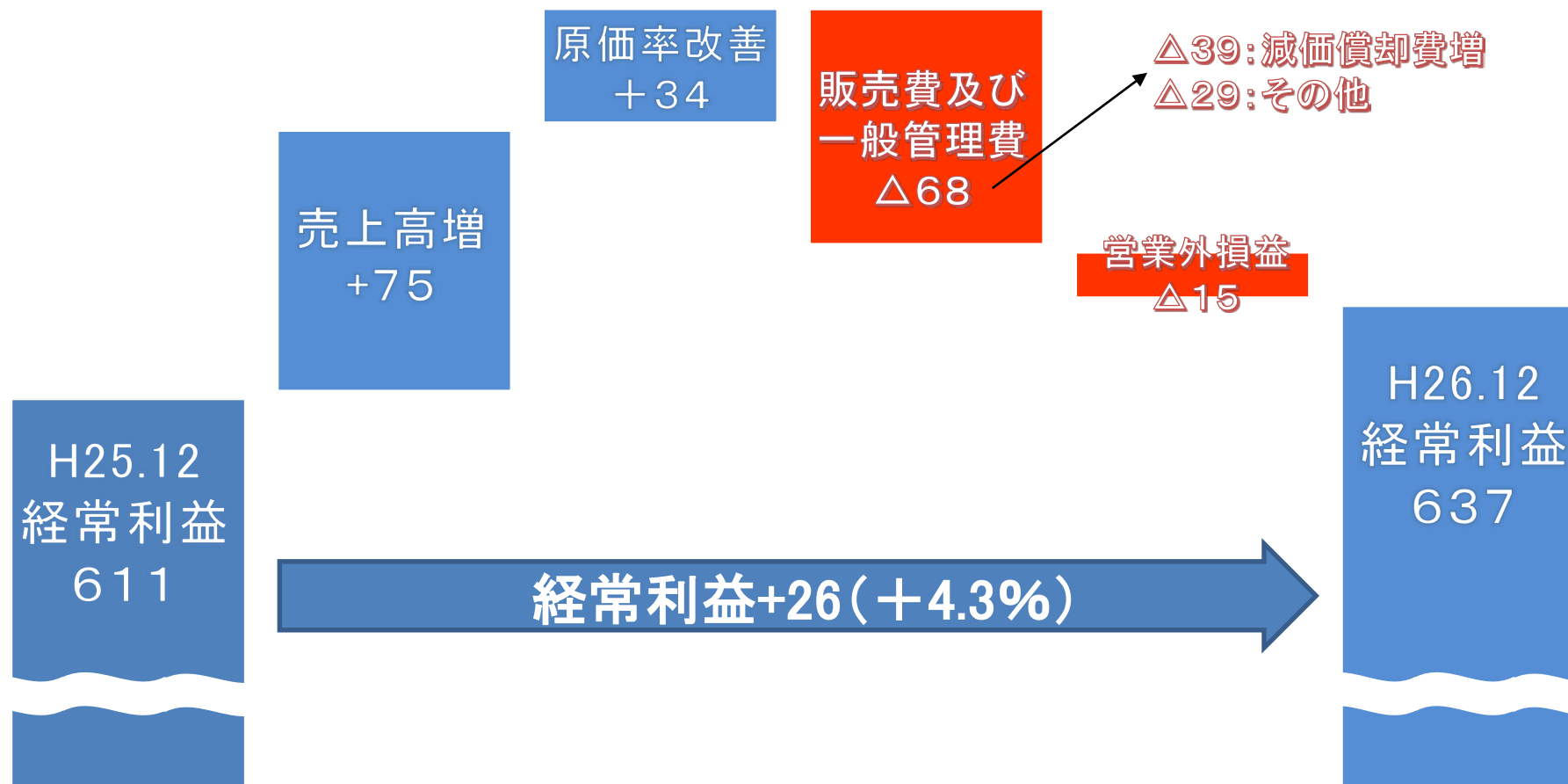


微小粒子状物質 (PM2.5) 測定装置  
(FPM-377B型)

# 経常利益増減分析

減価償却費の増加や営業外損益では前期の本社隣接ビルのテナント退去に伴う原状回復負担金収入の反動があったものの増益確保。

(単位:百万円)



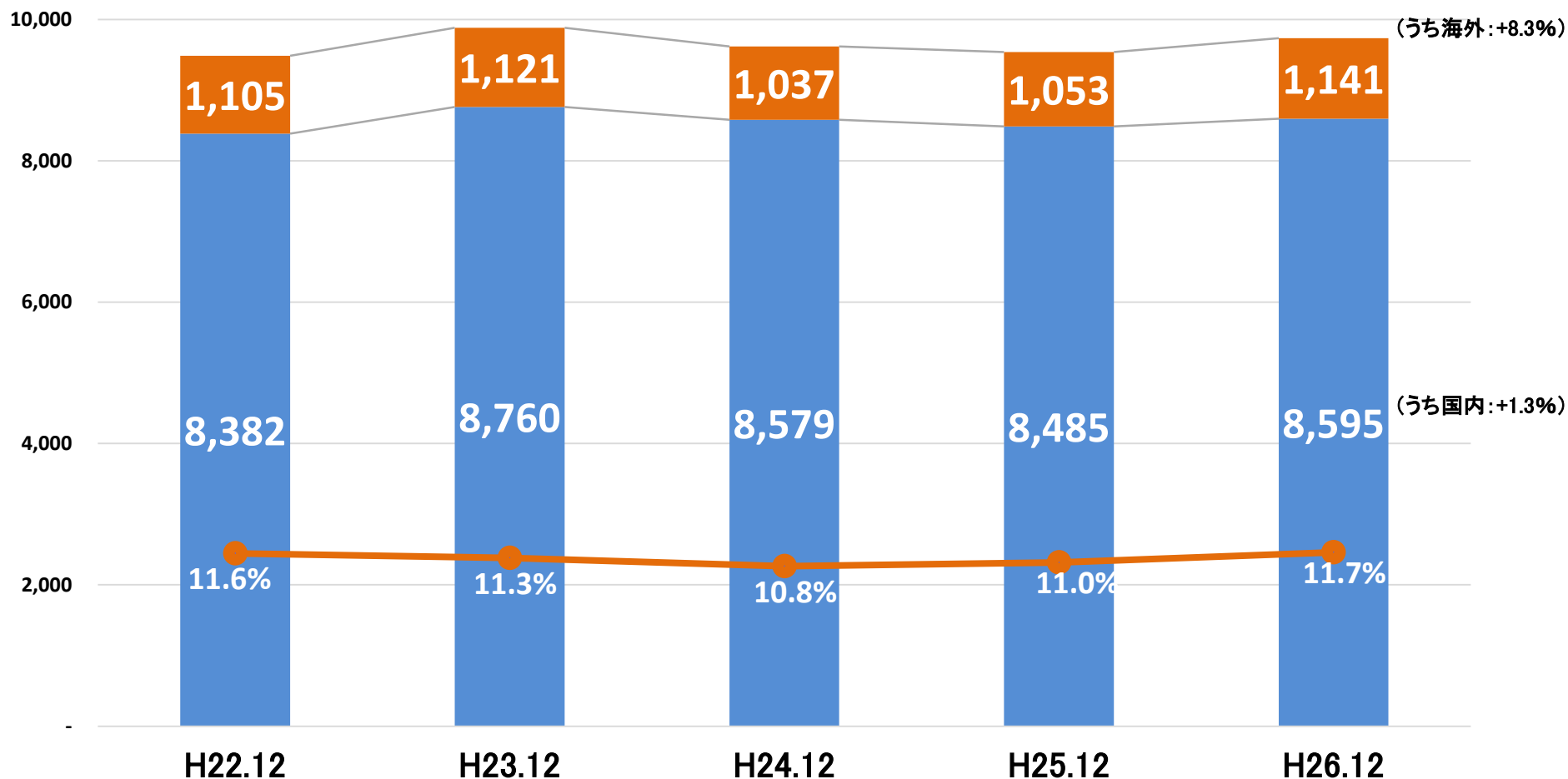
# 国内・海外売上高推移(第3四半期)

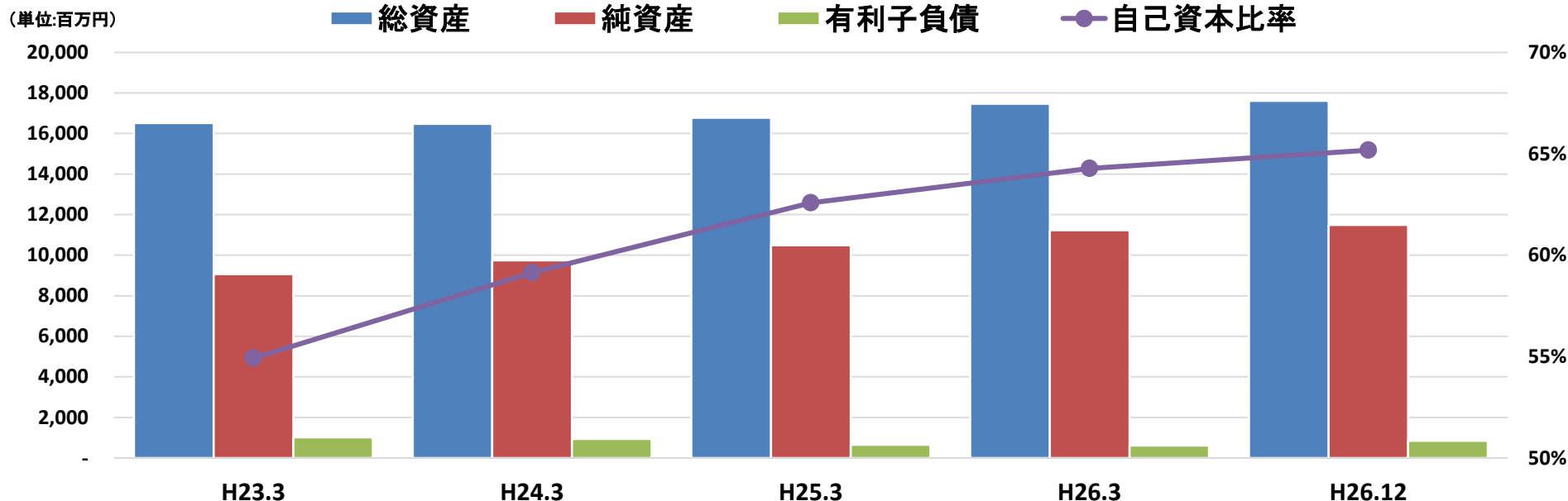


■ 国内売上高 ■ 海外売上高 ● 海外売上高構成比

(単位:百万円)

対前年同期比: +2.1%

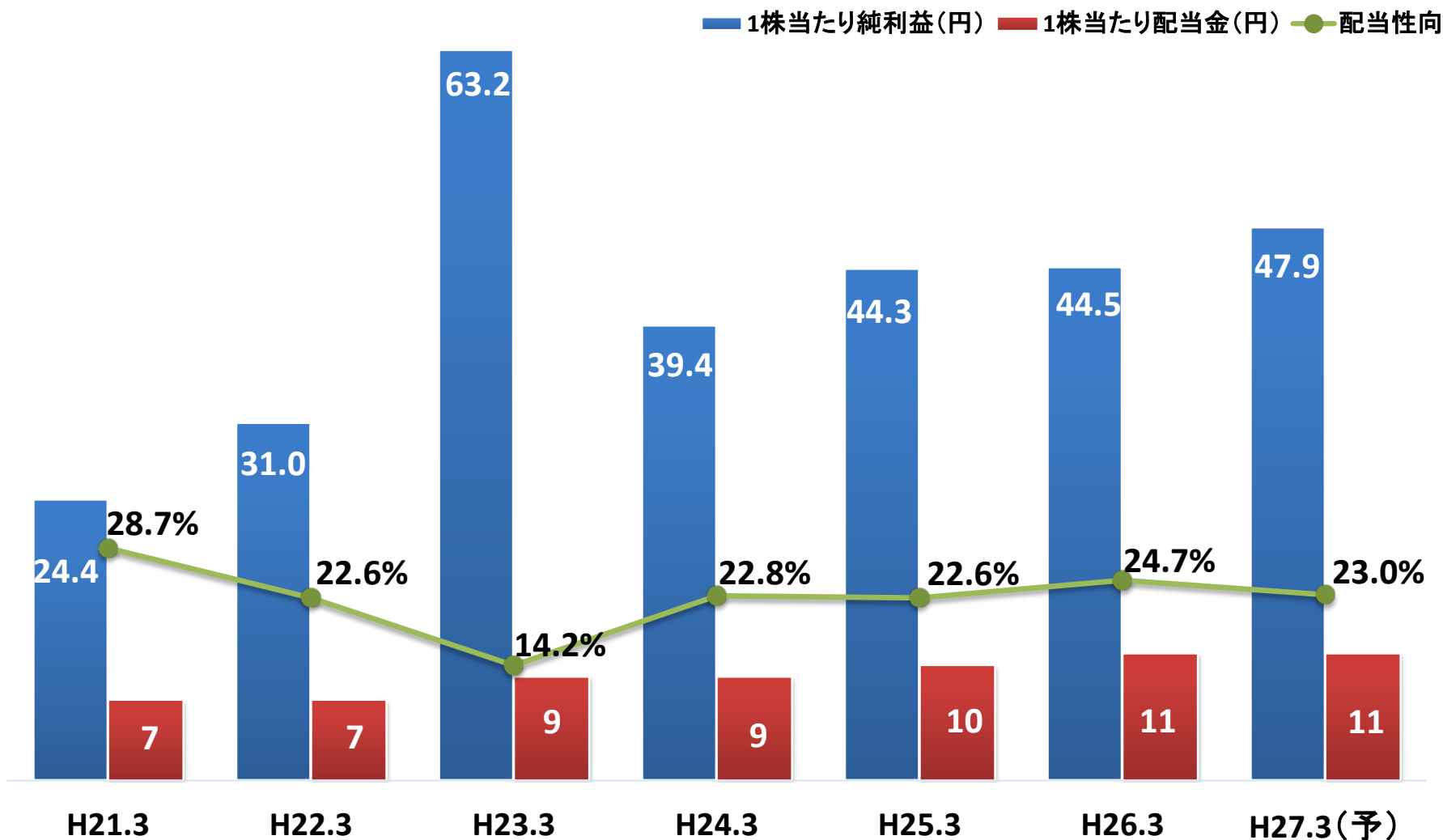




| (単位:百万円)  | H23.3  | H24.3  | H25.3  | H26.3  | H26.12 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総 資 産     | 16,512 | 16,477 | 16,769 | 17,469 | 17,605 |
| 純 資 産     | 9,069  | 9,745  | 10,494 | 11,228 | 11,492 |
| 自己資本比率(%) | 54.9   | 59.1   | 62.6   | 64.3   | 65.3   |
| 現 預 金     | 3,664  | 3,117  | 3,698  | 3,854  | 4,309  |
| 有利子負債     | 1,080  | 1,023  | 701    | 655    | 896    |

# 平成27年3月期 配当予想

平成27年3月期(予想): 普通配10円＋記念配1円(創立70周年記念)＝11円



APECでの日中首脳会談を受けて、中国北京で2年半ぶりに「第8回日中省エネ・環境総合フォーラム」が開催され、日中官民関係者合わせて約500名が出席。日本国内で関心の高い「大気汚染対策分科会」には当社も出席しPM2.5測定装置をPR。



平成27年1月7日(水)22時から放送のNHK BS1「国際報道2015『徹底討論 どうなる戦後70年の日中関係』」番組の中で、当社のPM2.5測定装置、中国市場に向けた取り組み及び子会社の山形東亜DKKが取材報道されました。

※NHK BS1「国際報道2015『徹底討論 どうなる戦後70年の日中関係』」のページ (<http://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2015/01/0107.html>)

※NHKオンライン (<http://www.nhk.or.jp/>)

1. 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
2. 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
3. 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
4. 業績等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
5. 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

＜お問い合わせ＞

東亜ディーケーケー株式会社  
企画総務部 企画・IR課

電話：03-3202-0242

メール：ir@toadkk.co.jp

URL：<http://www.toadkk.co.jp/>